

10月7日 第1回所長講話「大切なこと」は何ですか

所内研修の中の「所長講話」は、月に1回程度のペースで、学校教育に関することはもとより、沖縄の歴史文化等について計画しています。

【所長講話の主な内容】

「気づき、考え、実行する」

- はじめに
  - ・ 社会生活の中で基本的なこと、必要なこと、「習慣」にする
    - ①笑顔であいさつ ②5分前行動 ③見通しをもった準備
    - ④記録をとる ⑤報・連・相 を心がける。
  - ・ なすことによって学ぶ
- 1 「おかあさんになるってどんなこと」(内田麟太郎：文 中村悦子：絵)
  - 「名前を呼ぶ、手をつなぐ、心配する、ぎゅっと抱きしめる」
- 2 「研修をはじめる前に」
  - ・ 経営者(普通の人でも)5つの心の病に罹りやすい。
    - 「甘え、自惚れ、驕り、マンネリ、やっかみ」
  - ・ 仕事に慣れてくると
    - 「わかったつもり、やったつもり」になりがち
  - ・ 研修の必要性
    - 「自分を見つめ直す、自分磨き、常に刺激を与える」
  - ・ 沖縄県職員等のサービスの宣誓に関する条約(サービスの宣誓)
    - 第2条・教育公務員 宣誓書
- 3 「幼稚園教育要領」及び「小・中学校学習指導要領」等をもとに
  - ・ 先生は、子どもが最初に出会う大人
  - ・ 先生は、子どものモデル
  - ・ 先生の仕事は、人を育てる、子どもの成長に携わるれること
  - ・ 先生も、子どもから学べる。
- むすびに
  - ・ 子どものよさを見つける ・ ポジティブシンキング
  - ・ できない理由を探さない、できる方法を考え、実行する
  - ・ 感謝の気持ちを「ありがとう」など具体的に表してみる



写真1 所長講話



写真2 真剣に聞き入る教育研究員



【教育研究員の感想】

所長の講話の中に絵本がでてきましたが、絵本は子供だけが楽しむものではなく、私たち大人にとっても得るものがたくさんあり、保育の中で日常的に接している絵本の大切さを改めて感じました。その中で、「名前を呼ぶ」ことの意味について考えさせられました。これまでも子ども達と接するときには常に名前を呼ぶように心がけていましたが、そこにはその子自身のかけがえのない存在感・安心感を与える重要な意味があることを知り、このことを深く胸において子ども達とこれから接していきたいと思いました。

経営者の5つの病に関する話を聞き、自分自身を振り返ってみると、園行事や保育内容がマンネリ化していなかったか、例年通りで済ませている部分もあったのではないかと反省しました。

「子どものよさをたくさん見つける」「できない理由を探さない」「感謝の気持ちを忘れない」教師としても、一社会人としてもとても大切なことだと思いますので、今後、心がけていきたいと思えます。いろいろな学びの多き講話でした。

(稲嶺あゆみ)

「気づき、考え、実行する」この言葉は学校現場でもよく使われますが、研究所でも何度も耳にしており、研修が始まってからその意味を何度も心の中で考えています。今日の講話を聞きながら自分を振り返ってみると、教職に何年も立つうちに毎日学校で行っている指導方法や教材研究に対し、児童に何が一番よいのかと意欲的に模索する気持ちが薄れ、マンネリ化してきたと感じます。今回研究所で研究を進めていくながら、改めて気持ちに活を入れ、「初心忘るべからず」の気持ちで児童にとってよい方法を考え、実践していきたいと思います。

また、沖縄県職員等のサービスの規程に関する条例や宣誓書の意味についても分かりやすくお話ししていただき、初任研の時に宣誓した内容について今更ながら理解しました。言葉をわかりやすく伝えることも必要だと感じ、児童へ教える際も理解しやすい言葉を意識して話したいと思います。（安座名有里）

「長くいると大事なことを忘れることがある。」普段どれだけの意識を持って行動しているのだろうと、所長の話を聞いて考えました。採用から14年も経ち、年齢的にも中堅の立場になってはいますが、しっかりした組織人になっているだろうかと思自問自答してみました。「プロの条件」の中にも出てきた5つの心の病にかからないよう十分気をつけたいと思います。当たり前を習慣づけたすてきな教員になれるよう今よりも意識を高めていきたいと思います。

子ども達の成長に携える素晴らしい職に就いていることに自信を持ち、子どもの良さをたくさん身につけさせて進級させたいと思いました。そのためには、常に、ポジティブな思考を心がけていきたいと思っています。（勢理客貴之）

所長の講話を聞いて、社会の中での当たり前の行動を自分はできているのだろうかと考えたとき、次を見通した5分前行動が、あまり守れていない事があるので、研究所にいる間に習慣づけられるようにしていきたいと思いました。

絵本の読み聞かせでは「名前を呼ぶこと」「手をつなぐこと」「心配して、ぎゅっとだきしめて、泣くこと」という言葉が心に残りました。現場において、忙しい事を理由に子どもの話をあまり聞いてあげられていないことが反省することです。

所長の講話の中でいくつかの言葉が心に残りました。一つ目は「マンネリになるから、研修がある。」という言葉が腑に落ち、新たな気持ちで頑張りたいとおもいました。二つ目は「教師は人をつくり、育てる素晴らしい仕事」であるという言葉で、その通りだと思い、その分、責任ある仕事だとも思いました。

今の自分は子どもの課題の方に目を向けがちなので、長所もよく見て、ほめて伸ばすよう心がけたい。

感謝の気持ちはあるのですが、それを手紙や葉書で表したり、いただいたものに返事を出すのが遅かったり、出せなかったりしています。ぜひ、これも改善していきたいと思っています。（比嘉俊雄）

上原所長自らの絵本の読み聞かせは、大胆だと思いました。私も、毎晩子どもに絵本の読み聞かせはしても、逆の立場はなかなかないので、子どもの気持ちで聞けたと思います。

ミミちゃんとターくん言葉のやりとりを意識して聞くよう、前もって話されたので、そこが私たちに最も感じ取ってもらいたいことだろうと思い、集中して聞くことができました。生徒に話をする時にも、どこが大事であるかを予感させる心構えは大事だと思いました。

今日の上原所長のお話は、私たちが教える立場にいるという自覚と、教える立場であるからこそ、見られている、期待されている、そしてどれだけ社会の中で、とりわけ、生徒にとって有用な存在となり得るかを感じ取ることのできるお話でした。

教師として抱える課題に目をそむけず、探し続けつつも、生徒の抱える課題にも、きちんと向き合える教師でいたいと思いました。今回は、授業の改善という視点から、生徒の抱える学習課題の解決に少しでもつながるよう、研究していきたいと、決意をあらたにしました。（古謝栄子）